

宇田川文海著作年表

堀部功夫

題名・書名	刊行物名・(出版者)	署名	年月日
〔朝日新聞創刊の祝詞〕	朝日新聞	宇田川文海	明治12・1・26
○俳優評判記	此花新誌	半痴山夫人	明治12・3・29
尾上多見蔵の伝	〃〃	〃	明治12・4・12
〃〃	〃〃	〃	明治12・22 未完
○明治文庫・佐渡乃国阿金伝	魁新新聞	無署名	不明
毛谷村かねの履歴	朝日新聞	宇田川文海	明治14・9・7
〔入社辞〕	〃	無署名	明治14・12・3
色競べ松と紅葉	〃	無署名〔岡野半教作〕	明治15・3・15
橋岡甚三郎の履歴	〃	〃	明治15・4・7
〃	〃	〃	明治15・5・26
〃	〃	〃	明治15・5・10
〃	〃	〃	明治15・6・22
〃	〃	〃	明治15・6・8

資料

題名・書名	刊行物名・(出版者)	署名	年月日
一休亭の報条 (第六)	〃	運覽書屋主人	〃
橋岡甚三郎の履歴 (第七)	〃	〃	〃
〃 (第八)	〃	〃	〃
〃 (第九)	〃	〃	〃
〃 (第十)	〃	〃	〃
〃 (第十一)	〃	〃	〃
〃 (第十二)	〃	〃	〃
雁信壺の碑〔第一号〕	(太田権七)	〃	〃
〃 第二号	〃	〃	〃
〃 第三編	〃	〃	〃
〃 第四号	〃	〃	〃
〃 雁信壺の碑〔異版〕	〃	〃	〃
〃 修 田舎源氏	〃	〃	〃
〃 双蝶記	〃	〃	〃
〃 新累解脫物語	〃	〃	〃
〃 大塩 三津廻白浪	〃	〃	〃
〃 異聞	〃	〃	〃
〃 序詞	〃	〃	〃
椿説打岸浪	朝日新聞	無署名〔一説半改作〕	明16・2・27 ~ 3・15 未完
昔譚花散里	〃	〃	3・17 ~ 21 未完
大潮余聞三津廻白浪	(和田篤太郎)	無署名	5・14 御届
しほのはなみつのしらなみ	〃	〃	〃
孝子復讐実録	朝日新聞	無署名	8・14 ~ 10・14

〔劇場真報創刊の〕祝詞 〔名古屋絵入新聞創刊の〕祝詞 実録小芝の山嵐 〔演劇新報創刊の〕序詞 ○ 珍説芦辺廻鶴 ○ 朧月小松方原 写真鏡心経怪談	劇場真報 名古屋絵入新聞 演劇新報 演劇新報	宇田川文海述 宇田川文海 無署名〔「説と岡野」 半牧と合伴】 宇田川文海敬白	明17・12 " 1 " 2・6 " 2・2 " 4・19 3
○ 新編三枝物語 " " ○ 序 ○ 当世娘性質 〔朝日座の〕広条 ○ 劇場改良法 萬意 ○ 蟹気楼 小説 ○ 社会 進歩 蟹気楼 〔朝日座の〕広条 世界 進歩 第二十世紀二編の序	(駸々堂本店) 新聞穴探四十八癖 百妖笑々寄如件 演劇新報 " "	宇田川文海述 無署名 宇田川文海述 宇田川文海	明19・1 明19・12 明19・12 明20・11 明19・12
○ 滑稽 小説 ほら物語 ○ 社会 蟹気楼 造船学士 明日より掲載の新小説の御披露 吉野土産 蘭〔予告〕	はなもみぢ 大毎日新聞 " "	宇田川文海 宇田川文海謹白 半田川文海謹白 宇田川文海謹白	明23・3 " 6・19 " 6・18 明24・4 " 7・8 " 29

題名・書名		刊行物名・(出版者)	署名	年月日
新小説掲載の口上			宇田川文海	" "
〔昔辺踊りの唱歌〕			宇田川文海	" "
○夕涼み				" "
○浦の松風			宇田川文海	明25・2・10
〔小説かひよせ創刊の〕はしがき	小説叢書	小書かひよせ	宇田川文海	
梅を観るの記			半田川居士	" "
月瀬の真景に題す			無署名	" "
新小説掲載の御披露			宇田川文海識	" "
明日より掲載の新小説御披露			宇田川文海識	" "
小説七種を掲ぐるの序詞			宇田川文海識	" "
造船学士			宇田川文海識	" "
吾妻土産秋の草刈			宇田川文海識	" "
富士見業平			半田川居士	" "
いろくらへ			宇田川文海述	" "
健康の栞			宇田川文海述	" "
勝能進翁七周忌の法筵につらなりて			宇田川文海述	" "
病後の美人			宇田川文海述	" "
健康の栞			宇田川文海述	" "
○坐睡				" "
○造船学士				" "
暴食家			半田川居士稿	明26・1・2
岩上龜			半田川居士稿	" "



題名・書名	刊行物名・(出版者)	署名	年月日
三日の旅	〃	宇田川文海	〃
博覧会美術品短評	〃	宇田川文海	〃
敵島中止に就て	〃	宇田川文海	〃
祝勝軍歌	〃	宇田川文海	〃
病中苦吟一二	〃	〃	〃
滑稽 大当矢の魂	〃	〃	〃
演劇 勝軍祝一曲	〃	半痴居士	〃
美人高砂祝松風	〃	半痴居士	〃
寄海祝歌	〃	宇田川文海	明28・1
祭文	〃	〃	〃
辻信之介君を悼む	〃	〃	〃
新小説掲載披露	〃	〃	〃
新小説披露	〃	〃	〃
新小説掲載披露	〃	〔宇田川文海〕云ふ	〃
〃	〃	無署	〃
敷島	〃	宇田川半痴	明29・2
春日に藤を見て	〃	宇田川文海	〃
新小説蚤の痕掲載の披露	〃	宇田川文海	〃
朝明の風	〃	宇田川文海	〃
〔俳句〕	〃	半痴居士	〃
闇黒	〃	文	〃
酉年を祝ふ辞	〃	宇田川文海	〃
ゆかりの四季	〃	宇田川文海	明30・4

4・5  
11・8  
16  
12  
19

27  
6・15

新年雪	宮本武蔵(巻)	遼東家	勅題によりて今の見る所をよめる歌	博物場初見物	南海鉄道案内	○ 本誌改良の趣意	句子	月詣集	四社(一)	春日に藤を見て	二孝子の伝	月詣集	四社	竹生島	月詣集	真実	月詣集	温門の瀬戸	曲亭馬琴先生の信仰心	葉木の露	月詣集	曲亭馬琴先生の信仰心
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
明31	明31	明32	明32	明32	明32	明33	明33	明33	明33	明33	明33	明33	明33	明33	明33	明33	明33	明33	明33	明33	明33	明33
1・1・2	4・4・18	5・17	1・17	1・17	6・17	5・28	5・28	5・28	5・28	5・28	6・28	6・28	6・28	6・28	6・28	6・28	6・28	6・28	6・28	6・28	6・28	6・28

資料

題名・書名	刊行物名・(出版者)	署名	年月日
すくも虫	"	澁江魚隱	"
月詣集	"	運甃書屋主人	"
両寺	"	半痴居士	"
奈良土産	"	宇田川文海	11・28
峨山禪師を弔ふ	"	"	"
紅葉	"	澁江魚隱	"
月詣集	"	運甃書屋主人	"
両寺	"	半痴居士	"
奈良土産(二)	"	半痴居士	"
記者の公德	"	半痴居士	12・28
紅葉 中編	"	宇田川文海	"
月詣集	"	半痴居士	"
奈良土産(三)	"	半痴居士	"
紅葉 下編	"	宇田川文海	明34・1・28
月詣集	"	澁江魚隱	"
余が歌及び友人の歌	"	宇田川文海	"
暗の梅香	"	"	"
三日の旅	"	半痴居士	2・28
茶烟	"	宇田川文海	"
名勝雜詠	"	徐々庵主人	3・28
月瀬真影ノ記	"	宇田川文海	"
白蓮華	"	"	4・28
四社両寺	"	"	"



春日の社に藤の花を見て

名勝雜詠

白蓮華

四社兩寺

名勝雜詠

白蓮華

夏木立

二見浦

箕面の滝

愛婦

夏の京都(一)

愛婦

夏の京都(二)

多田の鼓ヶ滝

契沖阿闍梨

孟蘭盆

夏の京都

契沖阿闍梨(一)

孟蘭盆(一)

契沖阿闍梨(統)

孟蘭盆(三)

契沖阿闍梨(統)

孟蘭盆(第四)

〔天理教校開設式の〕祝詞  
本年の干支に就て

〃 〃

半	宇	徐	宇	徐	半	運	半	宇	徐	宇	徐	半
痴	田	々	田	々	痴	覽	痴	田	々	田	々	痴
居	川	庵	川	庵	〃	書	居	川	庵	川	庵	居
士	文	主	文	主	屋	屋	士	文	主	文	主	士
	海	人	海	人	主	主	人	海	人	海	人	

〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
明	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
35	1	12	11	10	9	8	7	6	5	28		
・	・	・	・	・	・	・	・	・	・			
15	15	15	15	15	15	15	15	15	28			

資料

題名・書名	刊行物名・(出版者)	署名	年月日
契沖阿闍梨	"	半字痴居士	"
孟蘭盆(第五)	"	半字痴居士	"
新年梅	"	半字痴居士	"
花ゑみ	"	"	"
福耳	"	"	"
契沖阿闍梨	"	半字痴居士	"
孟蘭盆(第六)	"	半字痴居士	"
天理教の特徵	"	無署名	"
契沖阿闍梨	"	半字痴居士	"
孟蘭盆(第七)	"	半字痴居士	"
梅のみさを	"	"	"
契沖阿闍梨	"	半字痴居士	"
孟蘭盆(八)	"	半字痴居士	"
雛のをしへ	"	"	"
神武天皇祭	"	"	"
南海双美	"	"	"
契沖阿闍梨補遺	"	"	"
人を以て鳥にだも如ざる可ん乎	"	"	"
契沖阿闍梨補遺	"	"	"
馬のよろこび	"	"	"
随感随筆	"	"	"
親切	"	"	"
天理教信徒の本務	"	無署名	"

七福神	〔短歌〕	愛のはたらき	魂の入替	返へしの風	詩人と画家	返へしの風	詩人と画家	豊大閣の半身	後悔	紅葉狩	豊大閣の半身	紅葉狩	豊大閣の半身(三)	新年梅	若水	本年の干支に就て	〔短歌〕	信仰治療	新年海	君子花	節分
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
半痴居士	宇田川文海	無署名	宇田川文海	管野正雄筆	宇田川文海	管野正雄筆	宇田川文海	宇田川文海	管野須賀子稿	宇田川文海	宇田川文海	宇田川文海	宇田川文海	管野須賀子稿	宇田川文海	半痴居士	宇田川文海	無署名	宇田川文海	宇田川文海	宇田川文海
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃

題名・書名	刊行物名・(出版者)	署名	年月日
新年海	"	"	3
君子花	"	"	3
神功皇后	"	"	4
博覧会の大体観	"	"	4
献身	"	"	5
神功皇后	"	"	5
博覧会の大体観	"	"	6
"	"	"	6
保津川下り(二)	"	"	7
"(二)	"	"	7
講壇上の二大雄弁家(上)	基督教世界	管野田須賀子海口記述	8
"(下)	"	"	8
神功皇后	基督教世界	管野田須賀子海口記述	15
成功	"	"	15
保津川下り(三)	"	"	15
曲亭馬琴の信仰心(上)	基督教世界	管野田須賀子海口記述	20
"(中)	"	"	20
"(下)	"	"	27
神功皇后	"	"	27
駒のいさめ	"	"	9
神様	"	"	9
保津川下り(四)	"	"	15

所感	おろか娘 (其一)	おろか娘 (其二)	善悪 (其三)	十五夜	おろか娘 (其四)	人生の重荷 (其五)	幸福の母	豊公遺物 (其一)	おろか娘 (其六)	本年の千支に就て	豊公遺物 (其二)	時局雑感	二個のカバン	本年の千支に就て (二)	豊公遺物 (其三)	本年の千支に就て (三)	豊公遺物 (四)	時局雑感 (二)	豊公遺物展覧会を観る	軍事小説	落花の感	豊公遺物 (其十六)		
基督教世界	基督教世界	基督教世界	基督教世界	基督教世界	基督教世界	基督教世界	基督教世界	基督教世界	基督教世界	基督教世界	基督教世界	基督教世界	基督教世界	基督教世界	基督教世界	基督教世界	基督教世界	基督教世界	基督教世界	基督教世界	基督教世界	基督教世界	基督教世界	
字半	田川文海	田川文海	田川文海	田川文海	田川文海	田川文海	田川文海	田川文海	田川文海	田川文海	田川文海	田川文海	田川文海	田川文海	田川文海	田川文海	田川文海	田川文海	田川文海	田川文海	田川文海	田川文海	田川文海	
"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	
"	"	5	4	3	"	"	2	1	明 37	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	
"	"	15	15	15	"	"	15	15	15	17	"	"	"	"	15	10	26	"	15	12	29	10	22	17

題名・書名	刊行物名・(出版者)	署名	年月日
時局雜感(三)	"	B・U・生	6・15
熱淚	"	痴居士	"
豊公遺物(其七)	"	田川文海	7・15
大教宣布の詔書に対し奉る所感	"	無署名	"
國民の詩歌	"	半川居士	"
豊公遺物(八)	"	字田川文海	"
時局雜感(四)	"	半川居士	"
講余間話	"	半川居士	"
豊公遺物(其九)	"	半川居士	"
講余間話	"	半川居士	"
豊公遺物(十)	"	半川居士	"
講余間話	"	無署名	"
秋季大祭	"	無署名	"
大古の日本人	"	字田川文海	明38・1・15
"	"	"	"
"	"	"	"
家庭三則	"	運覽書屋主人	"
大古の日本人	"	字田川文海	"
"	"	"	"
"	"	"	"
講余間話	"	半川居士	"
太古の日本人	"	半川居士	"
講余間話	"	半川居士	"

太古の日本人  
 高田屋嘉兵衛の逸事  
 太古の日本人  
 二日の旅  
 修学旅行一半の記  
 桜花と菊花  
 二日の旅  
 //  
 午歳出生の靈物界に於ける二大偉人  
本年千支 画題と御伽話に因める  
 我輩は天孫人種である  
 信徒參拜心得に就て  
 午歳出生の靈物界に於ける二大偉人  
 征韓と討明  
 余の見たる紅葉の俳句  
 午歳出生の靈物界に於ける二大偉人  
 征韓と討明  
 余の見たる紅葉の俳句  
 家庭と文学  
 征韓と討明  
 余の見たる紅葉の俳句  
 //  
 趣味  
 病の元は心から

み																			
ち																			
の	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"
と																			
も																			

無	宇	半	宇	鶉	宇	半	宇	半	宇	無	宇	半	宇	文	宇	半	宇
田	田	痴	田	田	田	痴	田	痴	田	田	痴	居	居	田	田	痴	田
署	川	"	川	萬	川	"	川	"	川	署	川	士	士	川	"	川	川
文	居	居	文	治	文	文	文	文	文	文	文	口	口	文	文	居	文
名	士	士	海	筆	海	士	士	士	海	名	海	演	演	海	海	士	海

"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"
"	"	7	"	6	"	5	"	4	"	3	2	"	明 39	1	12	"	11	"
22	"	15	"	15	"	15	22	15	"	22	22	"	15	15	"	15	"	10
																		9
																		15
																		15
																		8
																		15





小教祖たれ (上) " (下)	" "	無	明41
人 言ふより行へ	" "	署	3 22
感謝	" "	"	4 22
天理教の三大真理	" "	"	6 22
雪中の松	" "	"	7 22
結構	" "	"	8 22
梅始開	" "	"	2 15
安心を得るの秘訣 (上) " (下)	道 乃 友	字田川文海	明42 2 22
鳴子曳 (一)	" "	無	"
神懸	" "	字田川文海	"
鳴子曳 (二)	" "	無	"
" (三)	" "	字田川文海	"
" (四)	" "	字田川文海	"
婦人会の會員諸君に告ぐ	" "	署	"
鳴子曳 (五)	" "	署	"
" (六)	" "	署	"
" (七)	" "	署	"
去年のしをり (上)	" "	署	"
" (中)	" "	署	"
" (下)	" "	署	"
家庭は何を本位とすべき乎	" "	署	"
寒月照梅花	" "	署	"

題名・書名	刊行物名・(出版者)	署名	年月日
<p>○天理叢書 宣教講話の菜</p> <p>余は如何にして 道に友に筆を 執る事となりし乎 杜鵑一声(上)</p> <p>”(下)</p> <p>見るがまゝ聞くがまゝ 嘔り(上)</p> <p>”(中)</p> <p>”(下)</p> <p>「天理教祖」に就て 「天理教祖」を読む(上)</p> <p>講演 紀行 揚雲雀(上)</p> <p>○講演資料</p> <p>青年時代の御教祖</p> <p>講演 紀行 揚雲雀(下)</p> <p>溢れたる御教祖の慈愛</p> <p>懶惰より一転して精勤</p> <p>茸狩</p> <p>教祖盗賊に諭し給ふ</p> <p>社頭の杉</p> <p>教祖奸婦を憫み給ふ</p> <p>教祖乞食を恵み給ふ</p> <p>教祖照之丞を救済し給ふ</p> <p>きりなしぶしん</p>	<p>道</p> <p>乃</p> <p>友</p>	<p>一字</p> <p>田川文海</p> <p>記者</p>	<p>明45・1</p> <p>6</p> <p>7</p> <p>大1・11</p> <p>大2・4・8</p> <p>6・5・8</p> <p>7・8</p> <p>大2・8・8</p> <p>大3・12・8</p> <p>大3・1・8</p> <p>11・9・8</p> <p>9・8</p> <p>11・8</p> <p>12・8</p> <p>大3・1・8</p> <p>2・8</p> <p>3・8</p> <p>4・8</p> <p>20</p>

神憑	天啓に就いて	道	乃	友	宇	田	川	文	海	大	4	・	4	・	8
御神楽歌を読む心得	神憑	道	乃	友	宇	田	川	文	海	大	4	・	4	・	8
神憑	神憑	道	乃	友	宇	田	川	文	海	大	4	・	4	・	8
囀呼唯此の一事	神憑	道	乃	友	宇	田	川	文	海	大	4	・	4	・	8
日本は如何にして諸外国に優り得べき乎	神憑	道	乃	友	宇	田	川	文	海	大	4	・	4	・	8
世界ろくぢ	神憑	道	乃	友	宇	田	川	文	海	大	4	・	4	・	8
教祖の御予言	神憑	道	乃	友	宇	田	川	文	海	大	4	・	4	・	8
○福神としての夷様	神憑	道	乃	友	宇	田	川	文	海	大	4	・	4	・	8
伊勢路の春	神憑	道	乃	友	宇	田	川	文	海	大	4	・	4	・	8
ほこりばらひ	神憑	道	乃	友	宇	田	川	文	海	大	4	・	4	・	8
仮神殿と大仏殿	神憑	道	乃	友	宇	田	川	文	海	大	4	・	4	・	8
宗教と生活	神憑	道	乃	友	宇	田	川	文	海	大	4	・	4	・	8
福神としての大黒様	神憑	道	乃	友	宇	田	川	文	海	大	4	・	4	・	8
天理 <small>天理</small> 卒業生諸君に戯く	神憑	道	乃	友	宇	田	川	文	海	大	4	・	4	・	8
ひながた	神憑	道	乃	友	宇	田	川	文	海	大	4	・	4	・	8
お話に就て	神憑	道	乃	友	宇	田	川	文	海	大	4	・	4	・	8
別科入学生諸君を迎ふ	神憑	道	乃	友	宇	田	川	文	海	大	4	・	4	・	8
御大札奉祝の真意義	神憑	道	乃	友	宇	田	川	文	海	大	4	・	4	・	8
初代管長公を憶ふ	神憑	道	乃	友	宇	田	川	文	海	大	4	・	4	・	8
寄国祝	神憑	道	乃	友	宇	田	川	文	海	大	4	・	4	・	8
〔短歌・唱歌〕	神憑	道	乃	友	宇	田	川	文	海	大	4	・	4	・	8
三十年祭雑感	神憑	道	乃	友	宇	田	川	文	海	大	4	・	4	・	8

題名・書名	刊行物名・(出版者)	署名	年月日
平野先生を偲ぶ 序歌の一首 ほこり 〔短歌〕 上方の話に就いて 歐洲戦後の日本と天理教 〔短歌〕 水と神 〔短歌〕 上方の話に就いて 槐陰小話 〔短歌〕 道徳の更新 〔短歌〕 道乃友過去現在未来 〔短歌〕 上方の話に就いて 〔短歌〕 通裕 講談 曾呂利新左衛門 とびらひらきて 〔短歌・俳句〕 五十年と十年 〔短歌〕	道 上 道 上 方 方 " " " 乃 " " " " " " 乃 " " " 乃 " " " " 趣 趣 友 味 友 味 友 味	" "	大 6 " 2 " " 1 " 12 " " 11 " 10 " " 9 " 8 " " 7 " 6 5 3 " 15 " 15 1 15 1 " 15 " 15 " 15 10 " 15 " 15 5 " 15 15 15



題名・書名	刊行物名・(出版者)	署名	年月日
奉祝天理教独立十年祭の十文字を冠におきて	上方	田川文海	12月15日
千利休	上方	田川文海	11月15日
世界助けの教	上方	田川文海	9月15日
〔短歌〕	上方	田川文海	7月15日
千利休	上方	田川文海	6月15日
海辺の松	上方	田川文海	5月15日
〔短歌〕	上方	田川文海	4月15日
千利休	上方	田川文海	3月15日
世界一列	上方	田川文海	2月15日
てびき	上方	田川文海	1月15日
千利休	上方	田川文海	大7月1日
時局と天理教	上方	田川文海	12月15日
千利休	上方	田川文海	11月15日
国民の覚醒	上方	田川文海	11月15日
何故遅かった	上方	田川文海	9月15日
米騒動に就て	上方	田川文海	7月15日
華城八景	上方	田川文海	6月15日
円満なる前管長	上方	田川文海	5月15日
やまひたすけ	上方	田川文海	4月15日
千利休	上方	田川文海	3月15日

感謝と祈禱	とびらひらいて	利休の娘吟子	本教婦人の自覚	三訓三教	助一条	国民教養と天理教	平和米	住吉の月	よくの心をうちわすれ	講演の仕方聞方	よるづいさいのもと	大正八年の終りに臨んで	田家の早梅	ひとすじごころ	傾城吉野	故人の花見のいろく	豊太閤醍醐の花見
道	上	道	上	道	道	道	上	道	道	上	道	上	道	上	上	上	上
乃	方	乃	乃	乃	友	乃	乃	方	乃	乃	乃	乃	乃	乃	方	方	方
友	味	友	友	友	友	友	友	味	友	友	友	友	友	友	味	味	味
					宇田川文海著	宇田川文海				一記者	宇田川文海						
大8	2	4	5	6	7	8	9	9	10	10	11	12	15	15	15	15	15
15	15	10	15	5	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15

資料





明智光秀  
 " "  
 病中所感  
 河童の年礼  
 舞踏の流行  
 道の友の発展を祝す  
 明智光秀  
 熱と権威  
 近感録  
 明智光秀  
 近感録  
 尼崎郷土史料展覽會瞥見記  
 明智光秀  
 歳晚感謝  
 眺山雲  
 豊太閤経済的の一面  
 広徳寺と法円寺  
 教祖四十年祭の紀念事業として何をなすべき乎  
 胸の中より思案せよ  
 豊太閤経済的の一面  
 地藏寺と蓮体和尚  
 宗教即生活  
 天理教生活  
 豊太閤経済的の一面  
 隆達上人(上)

上	道	上	道	上	道	上	道	上	道	上	道	上	道	上	道	上	道	上	道	上	
方	"	乃	"	方	"	乃	"	方	"	乃	"	方	"	乃	"	方	"	乃	"	方	
た	"	乃	"	方	"	乃	"	方	"	乃	"	方	"	乃	"	方	"	乃	"	方	
趣			趣	趣			趣	趣			趣	趣			趣	趣			趣	趣	
沢	味	友	味	友	味	友	味	友	味	友	味	友	味	友	味	友	味	友	味	友	味

"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"
				字																	
				田																	
				川																	
				文																	
				海																	
				海																	
				署																	
				文																	
				海																	
				名																	

"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"
"	"	9	"	6	5	"	"	3	1	"	"	12	11	"	10	8	7	6	5	1	"
"	15	5	20	5	5	20	"	1	5	20	"	10	5	15	5	5	10	20	15	1	12
																					1
																					15
																					1
																					1



普選の実施と社会的宗教

豊太閣経済的の一面

ひながた

豊太閣経済的の一面

四十年祭後の天理教

大阪朝日新聞初期時代吉野の花見

道の友を手にして

愆

豊太閣経済的の一面

夕霧のおもひで

本誌に対する回想談

市川齋入

劇場改良法

平瀬露香

養老の御盃を頂きて

河竹父子の追慕

『御意は芳野の山桜』

道方乃趣味友

上方乃趣味友

上方乃趣味友

上方乃趣味友

上方乃趣味友

上方乃趣味友

上方乃趣味友

上方乃趣味友

上方乃趣味友

上方乃趣味友

上方乃趣味友

上方乃趣味友

上方乃趣味友

上方乃趣味友

上方乃趣味友

上方乃趣味友

上方乃趣味友

上方乃趣味友

上方乃趣味友

上方乃趣味友

上方乃趣味友

上方乃趣味友

上方乃趣味友

上方乃趣味友

上方乃趣味友

上方乃趣味友

上方乃趣味友

上方乃趣味友

上方乃趣味友

上方乃趣味友

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〔附記〕 宇田川文海 明治初期関西文壇の第一人者・続き物作家 の著作年表として、先に三浦阿き子氏作製『近代文学研究叢書31』昭44・7 昭和女子大学光葉会が公にせられたので、小表はその拾遺というかたちを採った。